

# ウシの自動体重測定施設の改善に関する研究

瀬尾 哲也

畜産管理学科共生家畜システム学助手

## 1. 目 的

水のみ場型自動体重測定施設（以下体重計）は、給水器前に設置された体重計に牛が乗ることにより、自動的に体重が記録される施設であるが、全く乗らない牛や前肢のみで乗る牛も多かった。そこでその施設を改善することを目的とした。

## 2. 方 法

浦幌町模範牧場育成牛を40頭（20頭×2群）供試し、体重計を下降（34 cm → 18 cm）および長さを延長（1 m 60 cm → 1 m 90 cm）する2処理をそれぞれ1週間ずつ行った。体重計をビデオカメラで撮影し、乗っているときの肢数を観察し、得られた体重値と照らし合わせた。さらに、作成したコンピュータプログラムにより4肢で乗ったときに測定されたデータを抽出した。

## 3. 結 果

体重計の降下により、ほぼ全頭が1日1回以上体重計に乗るようになった。また体重計の延長により、前肢のみで乗っていた牛も4肢で乗るようになった。しかし前肢のみを体重計にかけた状態でも体重が記録される場合もあり、プログラムにより4肢で乗ったデータを抽出したところ、正確な体重値を得ることができた。

## 4. 考 察

本施設を改良することにより、ウシは体重計に乗るようになった。さらに作成したコンピュータプログラムにより、正確な体重値を得ることが可能となった。